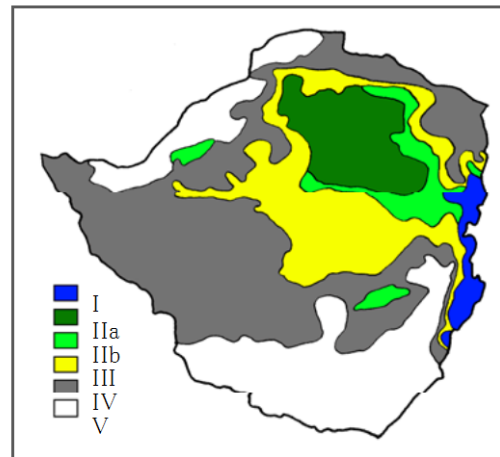


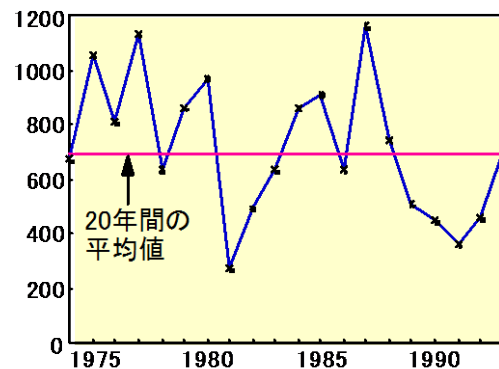
第5回：ジンバブエの農業と補助灌漑

ジンバブエは地域によっては年間雨量 1,000mm 以上のところもあるが、500～600mm 程度の半乾燥地もかなりの面積を占めている。ジンバブエの農業を考える場合、自然地域区分と土地所有制度が重要である。まず自然地域区分は、主として雨量によって図のようにⅠ～Ⅴまで5区域に分類されている。このうち区分Ⅰ及びⅡは雨量も 750～1,000mm 以上と多く農業に適しているが、区分Ⅲ以下は次第に条件が厳しくなる。区分Ⅴでは降水量は 450mm 以下でしかも不規則なため、農業には不適で粗放な牧畜等に利用されている。

土地所有を見るとジンバブエには国有農地、大規模及び小規模商業農地、コミューナルランド（共同体地域）、入植地域の5つの主な形態がある。このうち大規模商業農地は数百から数千 ha 規模で、主として白人が所有または使用している。また、小規模商業農地は黒人農家に私有を認めたもので、一戸当たり 50～200ha の範囲で配分されている。コミューナルランドや入植地も黒人農業地域である。土地所有と自然区域区分を重ねてみると、農業に適した地域の多くが大規模商業農地によって占められており、降水量が少なく農業にあまり適していない土地あるいは粗放的な牧畜しか行えないような土地にはコミューナルランドや入植地が分布している。



ジンバブエの自然地域区分



ジンバブエのほぼ中央に位置するミッドランド州のある地区を例にとってみると、この地区は年平均降水量が 600mm 前後で自然区域Ⅲに属し、メイズ、綿花、ヒマワリ、落花生等が主な作物の天水農業地帯である。最近 20 年間の降水量データをグラフに示したが、年変動が大きいことがわかる。天水農業ではトータルの降水量も重要であるが、降雨パターンも収量を左右する大きな要因の一つである。雨季でも雨の降らない期間が長く続く場合があり、作物の生育ステージによっては大きな被害を受ける。このような作物の生育や収量を左右する大切な時期に、補助的な灌漑（Supplementary Irrigation）ができれば旱魃被害の低減や収量増加に非常に効果的である。問題点はコストであり、大規模商業農場で行われているような移動式のスプリンクラーを設置した補助灌漑は、資金力のない零細農家には現実的ではない。小規模な溜池による灌漑や、中東で見られるような、素焼きの壺を作物の根元に埋めて水を補給する灌漑法（Pitcher Irrigation）、蒸発を防ぐために地下に雨水を貯水する溜池（Cistern）等々、あまり金をかけないで実現可能な技術の開発や改良・適用が必要である。



耕して雨を待つ小規模農場の農民



スプリンクラーで灌漑する大規模商業農場